

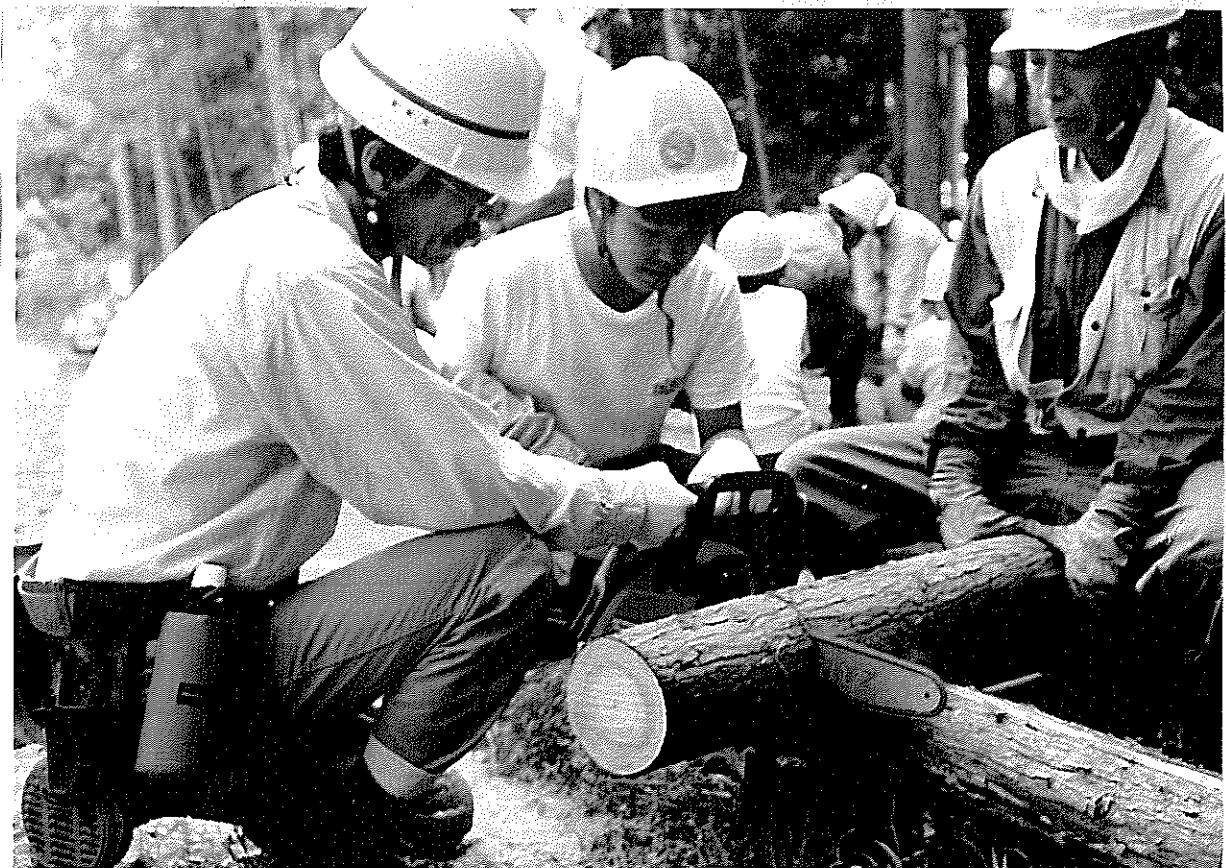
森林と川体験ワーキング

平成17年度協働パイロット事業

(自) 平成17年 9月 3日

(至) 平成17年10月 9日

みどり情報局静岡 (S-GIT)



事業の目的

私たち「みどり情報局静岡」は、森林保全活動を実践する団体として、人工林の間伐・下草刈りそして竹林の整備などを行ってきました。

その経験の中から感じていることは、森づくりは結局人づくりなのだという事です。

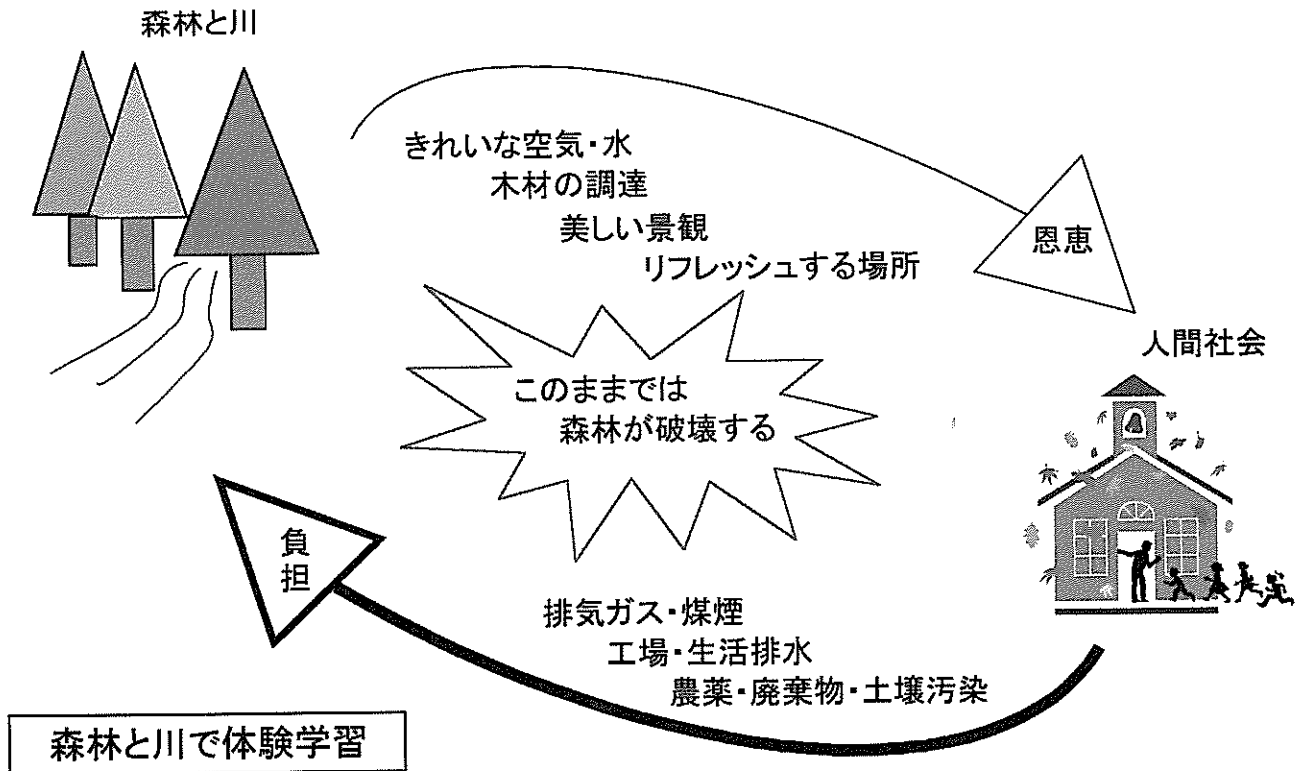
森林が作り出す公益的な機能は多種に及び、お金の換算すると静岡県の森林で一兆九千億円に及ぶと言います。

しかし、たいがいの人びとはその恩恵に何の不思議も関心も無いままに、当然至極と受け止め過ぎしているのではないのでしょうか。私たちは崩壊寸前までさし迫っている森林の現状を、一人でも多くの人に気づいてもらい、山に足を向かせる事ができたらと思い願ってきました。

今回、企画提案した『森林と川体験ワークショップ』が受託されて事業運営するにあたり、森の人づくりは底辺から拡大する必要があるという意味合いから、小学生を対象者にしました。

子供たちと森林に入り、木を切り倒すなど山仕事を体験する事で、樹木が材木として生まれ変わる事を理解してもらい、また川で遊ぶことの楽しさを満喫することにより、日常生活が森林とそこから流れ出る水によって支えられてる事に自らが気づくようなきっかけをつくる。そして自然環境を守るためには自分で何ができるのか考える機会を与えることを目的としました。

自然を壊さずに人が住める理想の町づくりを
森林で遊びながら体験を通じて学習する。



森林と川で体験学習

- 森林のしくみと、木材の使い方について話を聞く
- 間伐材を利用して楽器の工作
- ハイキングしながら山林の状況、植物を観察する
- 山小屋の生活
薪割り、火おこし、イロリで食事をつくる
- ナイトハイキング、闇夜の森に宇宙を感じる
- チェーンソーで木を切る、樹から木材を生産する山仕事体験
- 川の遊び
イカダのレース、川の生き物調査
- 変化する川
上流から河口まで流れるうちに、汚れてゆく水質を検証する

私が住みたい理想の町
構想して描き発表する

まとめと提言

§ ふりかえって

『森林と川体験ワークショップ』三回シリーズ四日間の事業を無事故で終了できた。少年向けの自然体験企画としては無難なテーマであるが、その中でも特色のあるプログラムメニューにするために思案を重ね、子どもたちをあきさせないで興味の持たせる内容にして豊富に盛り込んだ。

特に今回のワークショップの目玉を上げれば、立ち木を切り倒す「山の仕事体験」であろう。これは森林ボランティアなどに数々の講習会を開いて、実績のある我々が得意とする分野であり、森林保全をアピールするには端的に効果のある実技である。チェーンソーという機械から体に伝わる振動、挽き粉の匂い、そして樹木が倒れる臨場感から、子どもたちは山の仕事というものを何かしら感じとったのではないだろうか。

反面、対象者を小学生にしたことで、プログラムには遊びの要素も組み込まなければならなかった。山と川を関連づけて一筋のテーマを設定し、遊びもまじえて楽しみながら学習させ自然環境の大切さに気づくように導く。このような今回のワークショップは我々にとって未経験であったため、それを専門とする他団体の協力を得て運営した。

このワークショップのもう一つの目的は山小屋に泊まるキャンプである。子どもを自然の中に連れ出し、解放感と冒険心を誘う場所をつくってやる。囲炉裏端で火をおこし魚を焼く。五右衛門風呂につかる。闇夜のナイトハイキングなどに嬉々としていた。第二回のプログラムが終わり「楽しかった？またやりたいとおもうか？」の質問にほぼ全員の手が上がったとき、安堵するとともに達成感を味わったことを禁じえない。

§ 継続できる事業になりえるか

『森林と川体験ワークショップ』は啓蒙啓発的なイベントであり、造形物として目に残せる事業ではないので世間向けのアピール性にいささか弱い。しかしながら「次世代を担う子どもの情緒的人間形成の場所づくり」と位置付けるならば、今後も取り組んでゆかなければならない事業であると考ええる。

今回の『森林と川体験ワークショップ』を企画運営するに当って苦労した点が多々あったので、それらを検証することで今後も継続できる事業になりえるのか探してみる。

① 事業資金の捻出

今回、協働パイロット事業ということで事業費の大半は行政からの受託金で賄った。参加者の負担金は食事代として三千元（全回参加者）とした。基本的に主催者は赤字であってはならない。協力団体や講師への謝礼、施設の借用、機材燃料費、食費等の必要経費を引いて最後に帳尻をあわせるためには、スタッフの稼動手当で調整せざるをえない。ボランティア団体の活動で「ケガと弁当は自分持ち」というのはもはや過去の話で、汗を流した分だけ有償としなければその団体は長続きしないのが現状である。

『森林と川体験ワークショップ』を自前で開催するとなれば、四日間（一泊）のプログラムで三万円の参加費を頂かないと事業として成り立たない。どの親も子どもにそれだけの金をかけても参加させるだけの理解があれば問題ないのであるが。

我々としてはやはり公的資金の運用を望む。例えば今回協力いただいた興津川保全市民会議には市、企業、自治会などよりプールした「清流基金」があり、静岡市にも「市民の森基金」があると聞く。そのような資金を活用できないかと思っている。また静岡県は来年度から「森づくり県民税」の導入を決めた。その税金の用途について今後とりたただされるであろうが、森林整備のシステムを構築するためには若年層の啓蒙啓発が不可欠と考える。税金の中から「森林と青少年育成基金」といった運用資金が計上できることを強く提言したい。

② 安全対策

『森林と川体験ワークショップ』の運営にあたって我々が一番苦慮したのは、無事故で終了させるための安全対策である。成人相手の講習会でもそれなりの配慮はしているが、小学生を対象にしたことと、チェーンソーで立ち木を伐倒させるプログラムを初めて試みたことで一層に神経を使った。一般的に子ども相手の森林講習会で立ち木を切らせるのには手ノコを使用している。チェーンソーを持たせた場合でも、横に置いた丸太を切断させる程度である。しかし森林管理に絶対必要なチェーンソーをそこまで扱わせることで、このワークショップにひとつの大きな意義付けをした。

実施するにあたってスタッフ用に「指導要点マニュアル」を作成する。それに基づき救急処置方法の周知、当番医の確認と搬送方法。実習山林の整備。伐倒木の選定。班割りと人員配置等の準備を進め、本番前に子どもをみためての模擬演習を繰り返した。安全対策を行うにやりすぎたという上限はないが、十分訓練したことで無事故につながったものと感じている。全国に大小1100余の森林ボランティア組織がある。いずれの団体にしても『森林と川体験ワークショップ』のような事業を行うには、非常なリスクを背負うのを覚悟した上で安全対策を第一重点課題におかなければならない。人身事故の発生は即その団体の崩壊につながりかねないからである。

③ その他として

『森林と川体験ワークショップ』の参加者を募集するに当っては、清水区三保第二小学校の少年教室にすべて要請するつもりであったが、一般公募も合わせて募集することになった。「広報静岡」に掲載し、募集チラシを300枚作り公共機関に配布したがわずか1名の参加者にとどまり、一般公募の不確実性を思い知った。結局スタッフが手分けして3学区の子どもたちを集めたが、講義の最中に友達同士でふざけあい収拾に手間取る場面もあった。集まれば誰でもいいわけではなく参加させる子どもの資質にも問題が残る。事業を行うに参加者の確保は重要な仕事であるが、できることなら子供会やサークルなど一括で集められる方法を考えてなるべく主催者の負担を少なくしたい。

今回協働パイロット事業ということで、受託団体の選考を受けたが、受託金は一様である。事業の内容、規模によって必要経費が違うのであるから受託金の上下に幅をもたせて募集したほうが多様な企画が集まるのではないかと考える。NPOは会員相互の信頼と協力で成り立っており、活動は個人の自由意志で行うが決して無償の便利団体ではない。熱がはいる、いい仕事をする為にはそれなりに経費もかさんでゆく。全体的に受託事業費のアップを考慮していただきたいことをお願いするしだいである。

協働パイロット事業 『森林と川体験ワークショップ』 実施までの経緯

年 月 日	
平成 4年3月	清水みどり情報局 (S-GIT) 設立
平成15年8月	みどり情報局静岡 (S-GIT) に名称変更
平成17年5月	静岡市協働パイロット事業に企画書を提出
平成17年6月18日	協働パイロット事業・公開プレゼンテーションにて『森林と川体験ワークショップ』が採択される
平成17年9月3日	『森林と川体験ワークショップ』第一回実施
平成17年9月10～19日	会場山林の整備と事前演習
平成17年9月23～24日	『森林と川体験ワークショップ』第二回実施
平成17年10月9日	『森林と川体験ワークショップ』第三回実施

協力機関・団体

静岡市市民生活部市民生活課	(協働パイロット事業委託者)
静岡市市農林水産部農林総務課	
ホールアース自然学校	
静岡県林業技術者協会	
興津川保全市民会議	
興津川非出資漁業協同組合	

スタッフ

- ・ みどり情報局静岡 (S-GIT)
 - 統括 糠谷勲
 - 企画・進行 白井久男 奥寺利充
 - 技術・運営 滝敬道 山崎勝己 池田俊美 以下会員15名
- ・ みどり情報局東京 (GIT-TOKYO)
 - 代表 大澤英夫 以下会員3名
- ・ ホールアース自然学校
 - コーディネーター 大武圭介 井戸直樹